土木学会創立と古市公威

土木学会創立 90周年

土木学会の創立は1914年（大正3）年であり、本年は90周年にあたる。この創立は、この年、満60才を迎えた初代会長・古市公威、二代会長・沖野忠雄の還暦祝いと深い結びつきがある。

創立以前、土木工学者の多くは工学会に属していた。工学会は1879（明治12）年、工部大学校の卒業生が結成した最初の工学関係の学会であって、工学すべての分野の専門家の参加を呼びかけていた。しかし、85年に日本鉱業会、86年建築学会、88年電気学会、97年造船協会と機械学会、98年に工業化学会と次々と分野ごとの学会が創立され、工学会の会員のほとんどを土木工学の専門家が占めることとなった。古市は、1900（明治33）年から副会長となり、工学会の将来を案じて土木学会の設立には消極的であった。それはまた、過度の専門分化を否定し、工学の総合性を求めた古市の理念に基づくものであった。

しかし土木工学者による新たな学会設立の要望は強く、古市・沖野の還暦記念資金募集計画と同時的に進められた。古市は還暦記念計画を強く否定したが、後輩たちの熱心な懇請のもと土木学会創立を遂に承諾し、土木学会創立の協議会を1914年3月30日に開催したいとの古市の書面が土木工学の実力者・長老の下に届けられたのである。この後、古市も参加する特別委員会が設置され、土木学会設立趣意書、学会定款および同規則の草案が起草されて6月1日、全国の土木工学専門家に発送された。設立趣意書を以下に示す。

会長就任時

土木学会設立趣意書

泰西諸国ノ工学界ヲ観ルニ各専門家ハ競フテ斯学ノ研鑽ニ従事シ孜々トシテ倦マス各自研究実験ノ成績ヲ発表討議スルノ機関トシテハ即チ学会ヲ興シ刊行物ヲ頒布シ恒ニ斯学ノ進歩発展ヲ怠ラサルヲ期ス斯学現時ノ隆盛ヲ致セル蓋シ偶然ニアラサルナリ而シテ我国ニ於テモ現ニ機械、電気、建築等ノ如キ既ニ各専門ノ学会ヲ設立シ研鑽ヲ怠ラサルハ我工学界ノ為メ賀ス可キナリ然ルニ吾人専攻ノ土木学科ニ至リテハ学会其人ニ乏シカラス事業亦尠少ナラサルニ拘ラス今日ニ至ルマテ未タ土木学会ノ設立ヲ見ルヲ得サリシハ誠ニ遺憾ノ極ニシテ亦工学界ノ一大欠点ナラストセス仍テ吾人茲ニ土木学会ヲ設立シ会誌ヲ刊行シ研究討議ノ途ヲ開キ汎ク意見ヲ交換シ以テ土木工学ノ進歩及土木事業ノ発達ニ資センコトヲ期ス

（『土木学会誌』第1巻第1号　1915年1月号会務から抜粋・翻刻）

1914年9月15日、380余名の承諾を得て古市を座長とする土木学会発起人総会が開催され、古市が会長、沖野が副会長に選出され、ここに土木学会の創立となったのである。また文部大臣から社団法人土木学会の設立が許可されたのは同年11月24日、東京区裁判所で法人設立発起を済ませたのが12月7日であった。一方、古市・沖野の還暦記念資金募集により1,440人から資金が集められ、古市・沖野から土木学会基金に寄付された。

社団法人土木学会第一回総会が開催されたのは1915（大正4）年1月30日である。古市公威は初代会長として講演し、過度の専門分化により会員が専門性のみに安住して、土木の本来性が失われることを戒め、土木が土木たる所以である総合性を強く会員に喚起したのである。土木工学の原点を示すものとして、示唆に富む内容が提起されている。

余ハ極端ナル専門分業ニ反対スル者ナリ。専門分業ノ文字ニ束縛セラレ萎縮スル如キハ大ニ戒ムヘキコトナリ。殊ニ本会ノ方針ニ就テ余ハ此ノ説ヲ主張スル者ナリ。

本會ノ會員ハ技師ナリ技手ニアラス将校ナリ兵卒ニアラス即指揮者ナリ故ニ第一ニ指揮者タルノ素養ナカルヘカラス而シテ工學所屬ノ各學科ヲ比較シ又各學科相互ノ關係ヲ考フルニ指揮者ヲ指揮スル人即所謂將ニ將タル人ヲ要スル場合ハ土木ニ於テ最多シトス土木ハ概シテ他ノ學科ヲ利用ス故ニ土木ノ技師ハ他ノ專門ノ技師ヲ使用スル能力ヲ有セサルヘカラス

「土木学会第一回総会会長講演」から抜粋・翻刻（『土木学会誌』第1巻第1号　1915年1月号）